

臨床疑問 (CQ) 一覧

CQ 番号	CQ	推奨	推奨の強さとエビデンスレベル	頁
CQ1	がん疼痛のある患者に対して、アセトアミノフェンの投与は推奨されるか？	がん疼痛（軽度）のある患者に対して、アセトアミノフェンの投与（初回投与）を推奨する。	1C	100
		オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られていない、がん疼痛のある患者に対して、オピオイドとアセトアミノフェンの併用を条件付きで推奨する。 [条件] オピオイドが投与されているにもかかわらず、十分な鎮痛効果が得られない、または有害作用のため、オピオイドを増量できないとき。	2C	
CQ2	がん疼痛のある患者に対して、NSAIDsの投与は推奨されるか？	がん疼痛（軽度）のある患者に対して、NSAIDsの投与（初回投与）を推奨する。	1B	102
		オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られていない、がん疼痛のある患者に対して、オピオイドとNSAIDsの併用を条件付きで推奨する。 [条件] オピオイドが投与されているにもかかわらず、十分な鎮痛効果が得られない、または有害作用のため、オピオイドを増量できないとき。	2C	
CQ3	がん疼痛のある患者に対して、モルヒネの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、モルヒネの投与を推奨する。	1A	107
CQ4	がん疼痛のある患者に対して、ヒドロモルフォンの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、ヒドロモルフォンの投与を推奨する。	1B	113
CQ5	がん疼痛のある患者に対して、オキシコドンの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、オキシコドンの投与を推奨する。	1B	115
CQ6	がん疼痛のある患者に対して、フェンタニルの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、フェンタニルの投与を推奨する。	1B	118
		がん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、初回投与薬として、フェンタニル貼付剤の投与を条件付きで推奨する。 [条件] 投与後に、傾眠、呼吸抑制の重篤な有害作用の有無を継続して観察できるとき。	2C	
CQ7	がん疼痛のある患者に対して、タベンタドールの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、タベンタドールの投与を推奨する。	1B	121
CQ8	がん疼痛のある患者に対して、コデインの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度）のある患者に対して、コデインの投与を条件付きで推奨する。 [条件] 患者の選好、医療者の判断、医療現場の状況で、強オピオイドが投与できないとき。	2C	123
CQ9	がん疼痛のある患者に対して、トラマドールの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度）のある患者に対して、トラマドールの投与を条件付きで推奨する。 [条件] 患者の選好、医療者の判断、医療現場の状況で、強オピオイドが投与できないとき。	2B	125
CQ10	中等度から高度のがん疼痛のあるがん患者に対して、メサドンの投与は推奨されるか？	強オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られない、中等度から高度のがん疼痛のある患者に対して、メサドンの投与を推奨する。	1B	127
CQ11	がん疼痛のある患者に対して、ブプレノルフィンの投与は推奨されるか？	安定したがん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、ブプレノルフィンの投与を条件付きで推奨する。 [条件] 高度の腎機能障害があるとき。他の強オピオイドが投与できないとき。	2B	129
CQ12	がん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、抗うつ薬の投与は推奨されるか？	オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られていない、がん疼痛（神経障害性疼痛、骨転移による痛み）のある患者に対して、鎮痛補助薬として抗うつ薬の併用を条件付きで推奨する。 [条件] オピオイドを増量しても、十分な鎮痛効果が得られない、または有害作用のため、オピオイドを増量できないとき。	2C	132
CQ13	がん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、抗痙攣薬、ガバベンチノイドの投与は推奨されるか？	オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られていない、がん疼痛（神経障害性疼痛、骨転移による痛み）のある患者に対して、鎮痛補助薬として抗痙攣薬、ガバベンチノイドの併用を条件付きで推奨する。 [条件] オピオイドを増量しても、十分な鎮痛効果が得られない、または有害作用のため、オピオイドを増量できないとき。	2C	134
CQ14	がん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、抗不整脈薬の投与は推奨されるか？	オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られていない、がん疼痛（神経障害性疼痛）のある患者に対して、オピオイドに加えて、鎮痛補助薬として抗不整脈薬の併用を条件付きで推奨する。 [条件] オピオイドを増量しても、十分な鎮痛効果が得られない、または有害作用のため、オピオイドを増量できないとき。	2C	136

(つづく)

CQ 番号	CQ	推奨	推奨の強さと エビデンスレベル	頁
CQ15	がん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、ケタミンの投与は推奨されるか？	強オピオイドや鎮痛補助薬が投与されても、適切な鎮痛効果が得られていない、難治性のがん疼痛のある患者に対して、オピオイドに加えて、ケタミンの併用を条件付きで推奨する。 [条件] 強オピオイドや鎮痛補助薬を増量しても、十分な鎮痛効果が得られない、または有害作用のため、強オピオイドや鎮痛補助薬を増量できないとき。	2C	138
CQ16	がん疼痛のある患者に対して、ステロイドの投与は推奨されるか？	がん疼痛のある患者に対して、鎮痛補助薬としてステロイドの投与を条件付きで推奨する。 [条件] 脊髄圧迫症候群を含む、神経圧迫に伴う痛み、放射線治療による一過性の痛みの悪化、脳転移やがん性髄膜炎による頭蓋内圧亢進症状に伴う頭痛があるとき。	2C	140
CQ17	オピオイドが原因で、便秘のあるがん患者に対して、下剤、その他の便秘治療薬の投与は推奨されるか？	オピオイドが原因で、便秘のあるがん患者に対して、オピオイドの投与と同時に、または投与後に、下剤を定期投与することを推奨する。	1C	143
		オピオイドが原因で、便秘のあるがん患者に対して、末梢性 $\mu$ オピオイド受容体拮抗薬の投与を条件付きで推奨する。 [条件] 複数の下剤が投与されていても緩和されないとき。	2B	
		オピオイドが原因で便秘のあるがん患者に対する、その他の便秘治療薬（ルビプロストンなど）の投与について、明確な推奨はできない。	—	
CQ18	オピオイドが原因で、悪心・嘔吐のあるがん患者に対して、制吐薬の投与は推奨されるか？	オピオイドが原因で、悪心・嘔吐のあるがん患者に対して、制吐薬の投与を推奨する。	1C	146
CQ19	オピオイドが原因で、悪心・嘔吐のあるがん患者に対して、他のオピオイドへの変更、投与経路の変更は推奨されるか？	オピオイドが原因で、悪心・嘔吐のあるがん患者に対して、オピオイドの変更、投与経路の変更を条件付きで推奨する。 [条件] 制吐薬を投与しても、悪心・嘔吐が緩和しないとき。	2C	146
CQ20	オピオイドが原因で、眠気のあるがん患者に対して、精神刺激薬の投与は推奨されるか？	オピオイドが原因で眠気のあるがん患者に対する、精神刺激薬（メチルフェニデート、カフェイン、ペモリン）の投与について、明確な推奨はできない。	—	149
CQ21	がん疼痛のある患者に対して、病態（原発臓器、痛みの部位・種類）により特定のオピオイドを投与することは推奨されるか？	がん疼痛のある患者に対して、病態（原発臓器、痛みの部位・種類）により、特定のオピオイドを投与することについて明確な推奨はできない。	—	151
CQ22	がん疼痛のある、高度の腎機能障害患者に対して、特定のオピオイドの投与は推奨されるか？	がん疼痛（中等度から高度）のある、高度の腎機能障害（eGFR 30 mL/min 未満）患者に対して、初回投与のオピオイドとして、フェンタニル、ブプレノルフィンの注射剤を投与することを推奨する。	1C	153
CQ23	がん疼痛のある患者に対して、初回投与のオピオイドは、強オピオイドと弱オピオイドのどちらが推奨されるか？	がん疼痛（中等度から高度）のある患者に対して、強オピオイドの投与を推奨する。	1B	156
		がん疼痛（中等度）のある患者に対して、弱オピオイドの投与を条件付きで推奨する。 [条件] 患者の選好、医療者の判断、医療現場の状況で、強オピオイドが投与できないとき。	2C	
CQ24	がん疼痛のある患者に対して、より早く鎮痛するために、オピオイドを持続静注または持続皮下注で投与することは推奨されるか？	がん疼痛（高度）のある患者に対して、より早く鎮痛する目的で、オピオイドを持続静注または持続皮下注を開始することを推奨する。	1C	158
CQ25	がん疼痛の突出痛のある患者に対して、どの強オピオイドの投与が推奨されるか？	がん疼痛の突出痛のある患者に対して、レスキュー薬の投与を推奨する。	1B	160
		がん疼痛の突出痛のある患者に対して、経粘膜性フェンタニルの投与を条件付きで推奨する。 [条件] オピオイドが定時投与されており、経口投与のレスキュー薬を投与しても、鎮痛効果が得られるまで時間を要し、患者が満足できる鎮痛ができないとき。	2A	
CQ26	オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られない、がん疼痛のある患者に対して、オピオイドの変更は推奨されるか？	オピオイドが投与されているにもかかわらず、適切な鎮痛効果が得られない、がん疼痛のある患者に対して、オピオイドの変更を条件付きで推奨する。 [条件] 投与されているオピオイドを増量しても、予測される鎮痛効果が得られないとき。	2C	163
CQ27	オピオイドによる許容できない有害作用のある、がん疼痛のある患者に対して、オピオイドの変更は推奨されるか？	オピオイドによる許容できない有害作用のある、がん疼痛のある患者に対して、オピオイドの変更を条件付きで推奨する。 [条件] 対処しうる有害作用の治療を行っても、十分な治療効果が得られないとき。	2C	163
CQ28	がん疼痛の突出痛のある患者に対して、医師や看護師がオピオイド注射剤をボーラス投与することや、患者自身がボーラス投与（PCA：自己調節鎮痛法）することは推奨されるか？	がん疼痛のある患者に対して、通常は医師や看護師がオピオイド注射剤をボーラス投与することを推奨する。一部の患者には、PCAによるオピオイドの持続皮下投与または持続静脈内投与を条件付きで推奨する。 [条件] 病院では、迅速な突出痛の対処が必要で、患者が装置の使用方法を十分に理解しているとき。また、病院以外（施設、居宅）では、患者や家族の求めに応じて、医師や看護師がすぐボーラス投与を行うことができないとき。	2D	166